

主要産地における平成27年産水稻の生育状況等について 第10報 (8月6日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成27年8月7日)

道府県	生育状況等		
	区分	育苗・田植進捗状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(生育)	<p>(全道) 生育はやや遅れている(遅3日)。生育に地域間差が見られる。草丈は84.7cm、葉数は10.9枚、茎数は607本/m<sup>2</sup>で平年並。(北海道農政部 8月1日現在)</p> <p>(空知) 7月下旬の高温により生育は回復傾向にあり、出穂・開花は順調(出穂期7月30日、遅3日)。草丈は89.9cm、葉数は10.6枚、茎数は600.9本/m<sup>2</sup>で平年並。(空知総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(石狩) 生育はやや遅れている(遅2日)。草丈は82.8cmで平年並、葉数は10.9枚で平年並、茎数は632本/m<sup>2</sup>でやや多い。(石狩総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(後志) 生育は平年並に回復した(出穂期7月31日)。草丈は83.3cmで平年並、葉数は11.0枚で平年並、茎数は605本/m<sup>2</sup>でやや少ない。(後志総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(胆振) 生育は平年並(遅2日)。7月下旬に出穂を迎えた。草丈は77.7cmでやや短く、葉数は11.3枚で平年並、茎数は621本/m<sup>2</sup>で多い。(胆振総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年並に推移している。草丈は86.0cmで平年並、葉数は10.8枚で平年並、茎数は560.7本/m<sup>2</sup>で平年並。(日高振興局 8月1日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年よりやや早く推移(出穂期7月31日、早4日)。草丈は75.2cmで平年並、葉数は10.9枚で平年並、茎数は629.0本でやや少。(渡島総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(檜山) 葉数が続いており生育はやや遅れている(遅2日)。草丈は82.4cmでやや短く、葉数は10.7枚で平年並、茎数は611.2本/m<sup>2</sup>で平年並。(檜山振興局 8月1日現在)</p> <p>(上川) 生育は平年よりやや遅れて推移している(出穂期7月28日、遅4日)。草丈は83.4cmで平年並、葉数は10.7枚で平年並、茎数は633本/m<sup>2</sup>で平年並。(上川総合振興局 8月1日現在)</p> <p>(留萌) 出穂までに日数を要したが、生育はやや回復傾向にある(出穂期7月31日、遅3日)。草丈は82.0cmでやや短く、葉数は11.0枚で平年並、茎数は519本/m<sup>2</sup>で平年並。(留萌振興局 8月1日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年並(出穂期7月29日、遅2日)。草丈は81.1cmでやや短く、葉数は9.2枚で平年並、茎数は556.8本/m<sup>2</sup>で平年並。(オホーツク総合振興局 8月1日現在)</p>	<p>・注意報—アカヒゲホソミドリカスミカメが、平年より多く捕獲されている。さらに8月の気温が平年並か高くなる予報の為、全道で多く発生し被害が大きくなる恐れがある。(北海道病害虫防除所 8月5日公表)</p> <p>・8月の葉いもち(既発)の発生量はやや多く、穂いもちの発生期はやや遅く、発生量はやや多い予報。ヒメトビウカ(既発)の発生量は平年並、アカヒゲホソミドリカスミカメ(既発)の発生量は平年並の予報。(北海道病害虫防除所 7月28日公表)</p>
青森	(生育)	<p>・生育概況 (黒石) 「つがのロマン」の出穂期は8月2日で、平年より1日早かった。「青たの露露」の出穂期も8月2日であった。 (十和田) 「まっしろ」の出穂期は8月2日で、平年より2日早かった。 (青森県産米技術センター—農林総合研究所 8月5日公表)</p> <p>・8月5日現在の出穂状況は、県全体で89%で、平年に比べて66ポイント高かった。出穂最盛期は8月3日で、平年より5日早かった。(青森県 8月6日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。北東北では、紋枯病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の穂いもちの発生量はやや少なく、紋枯病は平年並と予想。斑点米カメムシ類とコバネイコはやや多く、フタオビコヤガ、ウナカ類及びコブメイガはやや少ないと予想。(青森県病害虫防除所 7月29日公表)</p>
岩手	(生育)	<p>・県内の水稲は、出穂してきた圃場が多くみられており、間もなく出穂期を迎えると思込まれる。(岩手県 8月3日)</p> <p>・県全体平均の幼穂形成期は7月11日と、平年並であった。7月29日現在、出穂期は8月3日頃と平年より1日早いと思込まれる。(岩手県 7月30日)</p> <p>・生育概況(7月24日現在) 農産研究センター(北上) 「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも、草丈は平年より短く、葉数は平年並で、茎数は、「ひとめぼれ」は平年並で、「あきたこまち」では平年よりやや多くなっている。葉色(SPAD値)は、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも平年並となっている。減数分裂期は、「あきたこまち」では7月24日(平年より1日早い)に達しており、「ひとめぼれ」は7月24日現在で達していない(平年は7月28日)</p> <p>県北農業研究所(軽米) 「いわてっこ」の草丈は平年より短く、葉数は平年並で、茎数は平年を上回っている。葉色(SPAD値)は概ね平年並となっている。減数分裂期は、7月20日(平年より3日早い)に達した。(岩手県農業研究センター 7月27日付)</p>	<p>・8月の穂いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量は多いと予報。斑点米カメムシ類の発生量は多く、フタオビコヤガとセジロウナカの発生量は平年並の予報。(岩手県病害虫防除所 7月30日公表)</p> <p>注意報 ・7月下旬の水田畦畔におけるカスミカメムシ類の発生量は過去10年間で3番目に多くなっており、斑点米の多発が懸念される。県下全域で発生数は多いと予報。 ・北上、胆江、一関地域では、葉いもちの発生が多く、穂いもちが多発する恐れがある。(岩手県病害虫防除所 7月30日公表)</p> <p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。北東北では、紋枯病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p>
宮城	(生育)	<p>・8月3日現在、56,583ha(水稲作付見込面積の87.5%)で出穂が確認され、本年の出穂期(県作付見込面積の50%が出穂)は7月29日、平年より8日早まっている。(宮城県 8月4日付)</p> <p>(大崎) 7月30日現在の平地地域で出穂期に達した面積は約63%で、平地地域の出穂期は7月29日(平年より6日早い)、丘陵地帯の出穂期は7月27日(平年より7日早い)、山間地域の出穂期は7月30日(平年より8日早い)となった。湛水直轄(加ハ-357)の草丈は平年よりやや低く、m当たり茎数は平年を上回った。葉色は平年より淡い。出穂期は8月1日頃と予想される。(大崎農業改良普及センター 8月3日付)</p> <p>(仙台) 7月21~23日調査の直轄の生育状況は、全てのほ場で幼穂形成期を迎え、まもなく減数分裂期に入る。生育が早いほ場では8月11~12日頃に出穂期を迎えることが予想される(平年と比べ3~4日早い)。(仙台農業改良普及センター 7月28日付)</p> <p>7月21日現在、生育ステージが平年より3~4日程度早まっている。7月20日の生育調査の結果、「ひとめぼれ」(3地点)の草丈は平年比99~105%、茎数は平年比101~107%、葉数は平年差-0.1~0.4枚、葉色(SPAD値)は平年差-1.8~0.5。「ササニシキ」(2地点)の草丈は平年比90~95%、茎数は平年比100~109%、葉数は平年差-0.4枚、葉色(SPAD値)は平年差-1.9~1.4。(仙台農業改良普及センター 7月28日付)</p> <p>(大河原) 7月21日の管内の生育調査は、茎数はやや多めで、葉数は平年並、葉色はやや低くなっている。葉数がやや多く、生育はやや早めに経過している。平坦な地域で田植の早かった「ひとめぼれ」や「まなむすめ」は7月末頃、山間部の「やまのしずく」は8月初め頃の出穂が見込まれる。穂晩生の「つや姫」でも、幼穂形成期に達した。(大河原農業改良普及センター 7月23日付)</p> <p>(美里) 7月21日現在、移植栽培は平年より1週間程度生育が早くなっている。草丈・茎数は平年並~多く、葉数は平年より多く、幼穂長は平年より長い。管内全体の出穂期は7月29日頃と思込まれる。直轄栽培は幼穂形成が始まっている。(美里農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(栗原) 7月21日現在、草丈は平年並(平年比100%)、茎数は平年並(平年比103%)、葉数は平年より多く(平年差+1.0枚)、葉色は平年並(平年比101%)、幼穂長等から生育は平年より5日前後進んでいる。5月4日移植および5月9日移植の調査までは、7月中旬に出穂期になる見込みが、5月18日移植の調査までは減数分裂期を迎えた。「つや姫」は幼穂形成期になり、出穂期は8月10日頃と推測される。(栗原農業改良普及センター 7月23日付)</p> <p>(登米) 7月21日現在、平年と比べて草丈はほぼ平年並、茎数はほ場によってバラツキがあるが概ね平年並、葉数はやや多く、葉色はバラツキがある。移植栽培のほ場の幼穂長から、減数分裂期は7月24日頃、出穂期は8月5日頃とみられている。登米市内での中生品種の減数分裂期は概ね7月14日頃(7月9~19日)と推定され、出穂期は7月29日頃(7月25日~8月2日)になるものとみられる。(登米農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(石巻) 7月21日現在、茎数は平年並~やや少なく(平年比97%~87%)、葉色(SPAD値)は井内(ササニシキ)ほ場を除いて平年を下回り、葉色相対値以下となった。幼穂長は11~156mmで、平年より播種・田植の遅い様生町寺崎(ササニシキ)ほ場を除いて、平年よりかなり長くなった。5月上旬田植のほ場ではすでに減数分裂期に達し、ひとめぼれほ場では、数日前に減数分裂期と推定され、(石巻農業改良普及センター 7月23日付)</p> <p>(本吉) 7月21日調査の結果、生育は平年より進んでいる状況。気仙沼市の生育調査は(ひとめぼれ)では、草丈・茎数・葉色は平年並、葉数は平年よりやや多い。南三陸町の生育調査は(ササニシキ)では、草丈はやや短く、茎数・葉数は多く、葉色は平年並。三陸沿岸地域の出穂期は8月3日~12日と予測。平年より4日程度早まる見込み。(本吉農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(亶理) 6月10日調査(ひとめぼれ)の結果、茎数は前年を上回り、葉数も前年より多くなる傾向がみられる。田植後の気温が高く推移したことから、土壌の還元が進み、生わらや未熟たい肥を施用した水田では還元障害による水稲の活着不良や生育抑制が見られる。(亶理農業改良普及センター 6月17日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・注意報—斑点米カメムシ類が県内全域で発生時期が早く、発生量が多予報。(宮城県病害虫防除所 7月29日公表)</p> <p>・8月上旬までの葉いもちの発生量は平年並、穂いもちの発生時期はやや早く(8月第3半旬)発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並、稲こし病の発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生時期は早く(7/26~7/31)発生量はやや多い予報。(宮城県病害虫防除所 7月22日公表)</p>
秋田	(生育)	<p>(鹿角) 7月25日の水稲定点調査の結果、あきたこまちの草丈は68.6cmで平年(74.8cm)より短く、茎数は579本/m<sup>2</sup>で平年(491本/m<sup>2</sup>)より多く、葉数は12.7葉で平年(12.2葉)より進んでおり、葉色は平年より濃くなっている。出穂期は平年よりやや早まる見込み。(7月31日付)</p> <p>(秋田) 7月24日の水稲生育定点調査の結果、「あきたこまち」で草丈72.9cm(平年比94%)、茎数503本/m<sup>2</sup>(同107%)、葉数12.5葉(同101%)、葉色39.9(平年比107%)であった。一部ほ場では出穂が始まっている。(7月31日付)</p> <p>(由利) 7月24日現在、管内全体での出穂期は平年より5日早い8月2日になると見込まれる。生育の早いほ場では、出穂期となっている。(7月31日付)</p> <p>(北秋田) 7月31日現在、管内全体の12%程度の圃場が出穂期を迎え、平年より早まっている。(7月31日付)</p> <p>(平鹿) 出穂が始まっており、出穂盛期は平年(8月5日)に比べてやや早まる見込み。(7月31日付)</p> <p>(雄勝) 7月24日の定点調査結果(あきたこまち8地点平均)では、葉数12.3葉(平年差+0.3)、草丈68.5cm(平年比92%)、mあたり茎数600本(同125%)、葉色は38.6(同98%)となっている。(7月31日付)</p> <p>(山本) 7月24日現在の水稲定点調査ほ場(管内9地点)における生育状況は、草丈66.9cm(平年比88%)、茎数523本/m<sup>2</sup>(同108%)、葉数12.2(同差±0葉)、葉色39.9(同104%)となっている。(7月24日付)</p> <p>(仙北) 7月15日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈56.8cmで短く(平年比89%)、茎数596本/m<sup>2</sup>で多く(平年比116%)、葉数は11.1葉(平年差+0.1葉)で平年並、葉色(SPAD値)は39.9(平年比100%)で平年並となった。(7月17日付) (秋田県農林政策課)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。北東北では、紋枯病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の穂いもちの発生量はやや少なく、紋枯病の発生量は多く、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予想。(秋田県病害虫防除所 7月30日公表)</p>

生育状況等	
山形	<p>・出穂は、県内各地で7月末から始まり、県全体では8月3日に盛期となり、平年より3日程度早まっている。「つや姫」の出穂も早まり、8月10日頃と見込まれる。 (<u>オールやまがた米づくり日本一運動本部 8月4日付</u>)</p> <p>(生育)</p> <p>(最上) やや遅く推移していた「つや姫」の葉色は徐々に低下してきている。7月中が高温で経過したことから、「つや姫」の出穂期は平年よりやや早まり、8月10日頃と予想される。(最上総合支庁 8月4日付) 管内の出穂は、高温少雨の状況が継続したことにより、平年より3、4日程度早くくなっている。既に早生品種は穂が出揃い、現在は中晩生品種の出穂期。(最上総合支庁 8月4日付) (東山村山) 「つや姫」の出穂期は、8月6～9日頃の予想。(村山総合支庁村山農業技術普及課 8月4日付) 「はえぬき」の出穂期は7月31日～8月4日。(村山総合支庁村山農業技術普及課 8月3日付)</p> <p>(北村山) 平年より3日～1週間も早く、出穂したものがみられる。「はえぬき」、「ひとめぼれ」、「コンヒカリ」では、出穂期が品種特性どおりでなく、遅転している場合もある。北村山平坦部の出穂は、「あきたこまち」7月29日～8月1日、「ひとめぼれ」8月1日～3日、「はえぬき」8月1日～8月6日、「つや姫」8月8日～12日、「コンヒカリ」8月7日～11日、中山部の予想出穂期は、平坦部より1～3日後とみられる。 (村山総合支庁北村山農業技術普及課 8月5日付)</p> <p>(酒田飽海) 管内の出穂期は8月3日と平年より3日早くなった。作況ほ(萩島)の「はえぬき」の出穂期は、8月2日(平年比-3日)。(酒田農業技術普及課 8月4日付)</p> <p>(鶴岡田川) 7月21日現在の生育診断中で、「はえぬき」の草丈は平年並、茎数が平年と比べて多く、葉色は平年より下がった。平坦部では12葉目が展開中で、平年よりも生育が2日程度進んでいる。早生品種「あきたこまち」では、出穂期は7月28日で平年より1日早く、中晩「ひとめぼれ」の出穂期は8月2日、「はえぬき」は8月1日で、平年より2～3日早い予想。晩生「つや姫」「コンヒカリ」の出穂期は、8月11日で、平年並～1日早い予想。 (庄内総合支庁農業技術普及課 7月22日)</p> <p>7月21日生育調査の結果、「つや姫」の茎数はやや多く、葉色は淡めに経過している。幼穂からみた出穂予想は、上清水は8月10日(平年8月12日)と、平年より2日程度早くすると見込まれる。 管内における「つや姫」の出穂期は、8月7日～12日頃(平年よりやや早い)の見込み。 (庄内総合支庁農業技術普及課 7月22日)</p>
福島	<p>・出穂期は、やや早いと予想されている。(福島県病害虫防除所 7月24日付)</p> <p>(会津・喜多方) 草丈は平年並みからやや短く、茎数は少なく、葉色は淡い傾向。6月下旬に入り葉色が回復し始めており、分つ確保が期待される。生育はやや早まっている。 (福島県喜多方農業普及所ほか 7月7日付)</p> <p>(生育)</p> <p>・6月30日現在の生育調査では、草丈が平年並みから長く、茎数が平年並みから多く、主稈葉数が平年並みから多くなっている。5月15日植えの本部(郡山)では、草丈が平年より短く、茎数が平年より少なくなっている。 (福島県農林水産部 7月7日付)</p> <p>(郡山) 6月19日現在の23ほ場の調査結果では、平坦部では草丈が平年並み、茎数は平年並みだが、ほ場によってバラツキがみられる。湖南地区は草丈は平年並み、茎数は平年より多くなっている。 (郡山市農作物生産対策協議会 6月19日付)</p>
茨城	<p>(水戸市) 7月30日現在の出穂期は、5月1日に移植した「あきたこまち」で平年より1日早く、「コンヒカリ」で5日早かった。 (8月3日付)</p> <p>(龍ヶ崎市) 7月23日現在、4月27日移植の「あきたこまち」の出穂期は7月13日で平年より2日早かった。「コンヒカリ」の出穂期は7月21日で平年より4日早かった。平年に比べ商品種とも、草丈・茎数は並、葉色はやや淡い。商品種とも主稈葉数が平年より1枚程度少ない。5月7日移植の「あきたこまち」の出穂期は7月18日で平年並。「コンヒカリ」は出穂始めが7月22日で平年より2日早く、出穂期は平年より2日早いと見込まれる。平年に比べ、草丈・茎数は商品種とも並、葉色は「あきたこまち」がやや淡く、「コンヒカリ」が淡い。 (7月23日付) (茨城県農業総合センター農業研究所)</p> <p>(生育)</p>
栃木	<p>・7月21日調査結果 早期栽培(コンヒカリ、16か所平均) 草丈はやや高い(平年比102%)。茎数は平年並(同比99%)で、葉色は0.1淡いことから、生育診断値(葉色×茎数)は平年比101%で平年並。葉齢は平年並、幼穂長は13.4cmで平年より7.4cm長く、出穂期は7月28日で、平年(8月2日)より6日早い。 (生育)</p> <p>普通栽培(あさひの夢、3か所平均) 草丈は50.6cmで平年比90%と低く、茎数は454本/m<sup>2</sup>で平年比98%とやや少ない。葉齢は9.9で平年より0.3葉少なく、葉色は4.4で平年より0.4淡い。生育診断値(葉色×茎数)は1,980で平年比91%と小さい。 (栃木県 7月24日付)</p>
埼玉	<p>・7月6日現在の生育状況 (県内全般) 普通栽培の移植は、平年より早く作業が進み概ね終了した。早期、早植栽培の生育は、センター内同様、草丈、茎数は概ね平年並みで、高温により幼穂分化はやや早まっている。早期栽培の中干しも概ね順調に行われた。普通栽培は、活着は良好で初期生育も順調である。 (センター内生育相) 早期栽培(5月1日植 コシヒカリ)は、草丈、茎数とも平年を上回って推移していたが、移植60日後の調査では草丈、茎数とも概ね平年並となっている。葉位の進展は平年よりやや早く推移している。 早植栽培(5月20日植 彩のかがやき)は、草丈、茎数とも概ね平年並に推移している。葉位の進展は平年よりやや早い。生育は概ね順調。 普通栽培(6月25日植 キヌヒカリ)は、苗の充実度はやや低かったが、活着は良好で、生育は順調。 (埼玉県農業技術研究センター 7月6日現在)</p> <p>(生育)</p>
千葉	<p>・4月20日頃に移植した「ふさおとめ」「ふさこがね」「コンヒカリ」の出穂期は平年より5～7日早くなっており、成熟期は早いところでは「ふさおとめ」は8月6日頃から、「ふさこがね」は8月12日頃から、「コンヒカリ」は8月19日頃からと予測される。5月1日頃に移植した「コンヒカリ」の出穂期は平年並から平年より3日早くなっており、成熟期は早いところでは8月20日頃からと予測される。平年と比較して7月上旬は気温が低く日照時間が少なかったことなどから、移植日にかかわらず地域や品種による生育進捗の差が見られる。 (千葉県農林水産部 7月30日付)</p> <p>(生育)</p>
	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の穂いもちの発生時期はやや早く発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は多い予報。 (山形県病害虫防除所 7月29日公表)</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類の発生量が県下全域で多い予報。 (山形県病害虫防除所 7月23日公表)</p>
	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の穂いもちの発生時期はやや早く、発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並、福こうじ病の発生時期はやや早く、発生量は平年並と予報。 斑点米カメムシ類の発生時期はやや早く、発生量は多いと予報。 イネツトムシの発生量はやや多いと予報。 (福島県病害虫防除所 7月24日公表)</p>
	<p>・8月の穂いもちの発生量は県下全域で平年並、縹葉枯病の発生量は県南及び東西地域でやや多いと予報。 斑点米カメムシ類の発生量は県下全域でやや多く、ニカメイカの発生量はやや多いと予報。 (茨城県病害虫防除所 7月31日公表)</p> <p>・関東では、いもち病、縹葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p>
	<p>・関東では、いもち病、縹葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・7月下旬～8月下旬のいもち病の発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予報。 (栃木県農業環境指導センター 7月17日公表)</p>
	<p>・関東では、いもち病、縹葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月のいもち病、縹葉枯病の発生量は多く、もみ枯細菌病の発生量はやや多く、紋枯病、セジロウカ、斑点米カメムシ類の発生量は平年並の予報 (埼玉県病害虫防除所 7月30日公表)</p>
	<p>・関東では、いもち病、縹葉枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・向こう1か月間の発生量は、いもち病はやや多く、紋枯病、こま葉枯病は平年並、斑点米カメムシ類は平年並～やや多く、イネツトムシは多く、ヒメトビウカ、イネアオムシ、イネツトムシは平年並、セジロウカはやや少ない予報。 (千葉県農業総合研究センター 7月8日公表)</p>

生育状況等	
新潟	<p>・7月30日現在、コシヒカリの出穂期は、8月5日で平年より2日程度早まる見込み、コシヒカリの生育は、指標値に比べ、葉色は「並」、草丈は「並」、莖数は「多い」状況。地域別には、葉色は新潟、佐渡で淡く、新津でやや濃くなっている。 (新潟県農林水産部 7月31日付)</p> <p>・7月21日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は「並」、莖数は「多く」、葉色は「並」。地域別には、莖数は南魚沼、上越で特に多く、葉色は新潟で淡く、新津、魚沼で濃い状況。 県内15か所の平均値(田圃別の平均は5月13日)は、葉数12.4葉(指標値差+0.5葉)、草丈76cm(同比100%)、莖数448本/m<sup>2</sup>(同比110%)、葉色(SPAD値)32.0(同差-0.6) (「新潟米」情報センター 7月23日付)</p> <p>□</p> <p>(若 船) 7月30日現在のコシヒカリの生育は、草丈は平年並、莖数は平年並(一部やや多)、葉数はやや早く、葉色は平年並。調査ほ場の生育の出穂期は、8月4日～14日(平均 8月8日)の見込み。(村上農業普及指導センター 7月30日現在)</p> <p>(生育) (新発田) 7月30日現在のコシヒカリの生育は、草丈は90cmで指標比105% (やや長)、葉数は401.7/m<sup>2</sup>で指標比108% (やや多) 葉数は13.6葉で指標差+0.8葉(多)、葉色は葉緑率計33.0で指標差-0.5(並)。指標値に比べ草丈・莖数ともやや大きい稲姿となっている。葉色は指標値並。出穂期は、平年より3日程度早まる予想。 (新発田農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(新潟) 7月30日現在のコシヒカリの生育は、草丈【並】、莖数【並】、葉数【並】、葉色【やや淡】。 (新潟農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(新津) 7月30日現在のコシヒカリの生育状況は、指標値と比べて、莖数は並、葉色はやや濃い～並。出穂期(盛期)は、当初予想(8月5日)よりさらに1日早まる見込み。葉色は回復しているが、一部ほ場でSPAD値30を下回る淡いほ場もある。 (新津農業普及指導センター 7月31日付)</p> <p>(三条) 7月30日現在、コシヒカリは、葉色が維持されている。一部走り穂が見られるほ場もあり、出穂期は平年より2日程度早まる見込み。こしいぶきは、穂が傾きはじめ熟度が順調に進んでいる。(三条農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(長 岡) 7月30日現在、コシヒカリの出穂期は、5月10日移植で8月3日頃と推測され、平年より3日程度早い見込み。移植の早いほ場では、既に出穂が確認されている。草丈は指標値102%、葉色(SPAD値)は指標値+0.8で並であるが、一部で葉色の淡いほ場がある。(長岡農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(南魚沼) 7月30日現在のコシヒカリの生育状況は、指標値に比べ、草丈は83cm(指標値比101%)で「並」、莖数は412本/m<sup>2</sup>(同比113%)で「多」、葉色はSPAD値32.2(同差+0.7)で「並」となっている。出穂期は平年と比べ1～2日程度早まる見込み。(南魚沼農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(十日町) 指標値に比べ、草丈は並、莖数は並、葉色は並(しぶみ地区やや濃い)。出穂期は、新潟次郎(十日町市中央、5月10日田植え)は7月19日、こしいぶき(十日町市上野、5月14日田植え)は7月29日。 (十日町地域振興局農業振興部 7月30日付)</p> <p>(柏 崎) 7月30日現在のコシヒカリの生育状況は、草丈・並、莖数・やや多、葉数・並、葉色・やや淡い(指標値並)。出穂期は8月4日頃の見込み(平坦地、5月10～15日播)。葉色低下の大きいほ場が一部で見られる。 (柏崎農業普及指導センター 7月31日付)</p> <p>(上 越) 7月30日現在のコシヒカリの生育(指標値比)は、草丈はやや長く(109%)、莖数は多く(122%)、葉数はやや多く(140.6葉)、葉色は並(葉色値-0.4)。出穂は平年より2、3日早い予想。(5月10～15日の田植では8月3～4日頃が出穂期の見込み)、「こしいぶき」の生育は、平年より2日程度早く出穂している。穂数はやや多く、葉色は濃くなっている。(上越農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(糸川) 7月30日現在のコシヒカリの生育は指標値と比べて、草丈は並、莖数は多い、葉色は並となっている。コシヒカリの出穂期は平年に比べて2～3日早くなる見込み。(糸川地域振興局農林振興部 7月31日付)</p> <p>(佐 渡) 7月30日現在のコシヒカリの生育指標値と比べて、草丈、莖数は並、生育進捗はやや早い～並、葉色はやや淡い。 (佐渡農業普及指導センター 7月30日付)</p> <p>(巻) 7月27日現在のコシヒカリの生育は、草丈は指標比「並」、葉色は指標比「淡い」。出穂期は、平年並から1日程度早い見込み。早生は穂揃い～傾穂期で、平年に比べ2～3日程度早くなった。(巻農業普及指導センター 7月27日付)</p> <p>(魚 沼) 7月30日現在の管内の生育状況は、草丈は平年並～やや短く、莖数は平年並～やや多く、葉数は平年並、葉色は平年並～やや濃い。地域差が大きい。特に葉色では、平場を中心に退色の進んだほ場が見られる。出穂予想は、平年並(前年より1日程度遅い)の見込み。(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月16日付)</p>
富山	<p>・8月の種いもちの発生量は平年並～やや少なく、紋枯病、稲こらじ病の発生量は平年並の予想。 斑点米カメムシ類の発生量はやや多い～多い、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、コフメイガの発生量は平年並～やや多い、セジロウカ、イネアオムシ、イネツトムシの発生量はやや少ない、ニカメイチュウの発生量は少ないと予想。 (新潟県病害虫防除所 7月31日公表)</p> <p>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想。 (農林水産部 7月28日公表)</p>
富山	<p>・生育観測データ(7月21日現在) (コシヒカリ) 草丈、葉齢は平年並、莖数は平年よりやや多く推移している。葉色は平年よりやや濃くなり、施肥体別では、肥効調節のほとんどのほ場で前回調査時より濃くなり、分蘗のほ場では淡くなった。幼穂形成期は、平年並の7月13日となった。出穂期は、平年並みの8月4日頃と見込まれる。 (てんたく) 5月15日移植の出穂期は平年より3日早い、7月20日頃と見込まれる。成熟期は、平年より3日程度早い、8月25日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月21日付)</p> <p>・直播情報(7月17日現在) (生育) ・湛水土中直播栽培(カルバー) 生育は、草丈、葉齢は平年並、葉色はやや淡く推移している。幼穂形成期は、平年並の7月17日。出穂期は、平年並の8月7日頃と見込まれる。 ・湛水表面直播栽培(鉄) 葉齢は昨年よりやや遅れており、草丈はやや短く、莖数、葉色は平年並に推移している。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ昨年より2日程度遅い7月20日頃、8月10日頃と見込まれる。 ・乾田溝直播栽培 近年に比べて葉齢が遅れており、草丈は短く、莖数は多く、葉色はやや淡い。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ近年並の7月21日頃、8月12日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月17日付)</p>
石川	<p>・8月の種いもちの発生量は少なく、紋枯病、ごま葉枯病の発生量は多いと予想。アカヒゲホソミドリカスミカメの発生量はやや多く、アカスジカスミカメの発生量は平年並、ニカメイガ、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、その他の害虫の発生量は少ないと予想。 (富山県農林水産総合技術センター 8月3日公表)</p> <p>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想。 (農林水産部 7月28日公表)</p>
石川	<p>&lt;7月28日調査結果&gt; 出穂期 ゆめみづほの出穂期は、平年に比べ3～5日早く、加賀平均で7月16日、能登平均で7月19日となった。コシヒカリは、生育の早い加賀地域で出穂期となっているほ場が見られ、平年に比べ加賀地域で3日程度、能登地域で1日程度早いと予想される。 莖数 コシヒカリは413本/m<sup>2</sup>、平年比106% (加賀地域106%、能登地域105%)と平年並。 (石川県農林総合研究センター 7月28日調査)</p>
福井	<p>・8月の種いもち、ごま葉枯病の発生量は平年より少なく、紋枯病の発生量は平年並の予想。 斑点米カメムシ類の発生量は平年より多く、トビロウカカの発生量は平年並、ツマグロヨコバイ、セジロウカ、イネアオムシ、コフメイガ、コバネイナゴの発生量は平年より少ないと予想。 (福井県農業試験場 7月31日公表)</p> <p>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想。 (農林水産部 7月28日公表)</p>
福井	<p>・7月16日水稲調査の結果は、コシヒカリは草丈が短く、莖数は平年並で、幼穂形成期もほぼ平年並の7/12日。ハナエチゼンの出穂期を迎えており平年並～4日早い。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月17日付)</p>
長野	<p>・7月中旬～8月中旬の種いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並～やや多い、ニカメイチュウの発生量はやや少、ツマグロヨコバイ、セジロウカ、イネツトムシの発生量は平年並、イナゴ・カメムシ類の発生量は平年並～やや多いと予想。 (長野県病害虫防除所 7月15日公表)</p>
長野	<p>・7月27日現在、豊科定点圃場(種苗5月15日播)では、「あきたこまち」は7月24日、「美山錦」は7月26日に出穂期となった。早生種の出穂期は「平年より5日早」であった。「コシヒカリ」は今週から飛び種が見られ、平坦地では8月5日前後に出穂期を迎えたとされる。「コシヒカリ」の草丈は57cm(平年比116%)、莖数は711本/m<sup>2</sup>(同比110%)。「あきたこまち」の草丈は55cm(平年比110%)、莖数は669本/m<sup>2</sup>(同比124%)。平坦部の早生種(あきたこまち、美山錦など)は、刈り取り開始や成熟期は平年、昨年より早まると予想される。これから出穂を迎えるコシヒカリも同様の傾向になると思われる。 (松本農業改良普及センター 平成27年作物技術普及情報第12号)</p>

生育状況等		
滋賀	<p>・7月21日時点の生育状況は、草丈は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並であった。葉数は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年より多かった（平年比で約1割多い）。葉色は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年よりやや淡かった。葉数は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並であった。</p> <p>「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月5日で平年より1日早く、出穂期は7月29日で平年と同日であった。「秋の詩」の幼穂形成期は7月17日で平年より1日早かった。  （滋賀県農業技術振興センター 7月30日付）</p> <p>(生育) 「みずかみ」の生育状況(7月27日現在)</p> <p>4月下旬移植は、出穂期は7月16日頃がピークであった。成熟期のピークは8月18日前後になると予測される。  5月上旬移植は、出穂期は7月21日頃がピークであった。成熟期のピークは8月23日前後になると予測される。  5月中旬移植は、7月末に出穂期を迎えている。成熟期のピークは8月下旬～9月初旬になると予測される。  5月下旬移植は、出穂期は8月上旬になる見込み。  （滋賀県農業技術振興センター 7月30日付）</p>	<p>・穂いもちの発生量は平年並、紋枯病、白葉枯病の発生量はやや多いと予報。  トビイロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類、コブノメイガの発生量は平年並と予報。  （滋賀県病害虫防除所 8月4日公表）</p> <p>・近畿では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p>
兵庫	<p>・県南部の生育は平年並で、葉数がやや少ない。出穂は平年並の見込み。県北部では、生育は平年並～やや早く、葉数が多い。出穂は平年並～やや早くなる見込み。</p> <p>7月30日現在の出穂期の予測は、県南平垣部（たつの市、揖保町）のヒノヒカリ（6月10日移植）では8月28日、県南平垣部（加東市、天神）の山田錦（6月5日移植）では8月25日、淡路平垣部（南あわじ市、種別）のキヌヒカリ（6月20日移植）では8月21日の見込み。  （兵庫県農政環境部 8月3日付）</p> <p>(生育)</p>	<p>・近畿では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p> <p>・向こう1か月間の発生量は、いもち病、紋枯病は平年並、綿葉枯病、ヒメトビウンカはやや多く、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類は平年並、トビイロウンカ、イネツトムシ、コブノメイガはやや少ない予報  （兵庫県病害虫防除所 7月22日公表）</p> <p>・台風第11号による被害  畦畔崩壊等 118ヶ所  （洲本市、三木市、淡路市、加東市、佐用町 等）  （兵庫県 7月21日付）</p>
岡山		<p>・穂いもち、白葉枯病の発生量は平年並、葉いもち、紋枯病、穂粒の発生量はやや少ないと予報。  ニカメイガ、セジロウンカ、トビイロウンカ、イチモンジセセリの発生量は平年並、コブノメイガ、カメムシ類の発生量はやや少と予報。  （岡山県病害虫防除所 8月3日公表）</p> <p>・中国では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。  中国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p>
広島		<p>・中国では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。  中国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p> <p>・8月上旬までの穂いもちの発生量は多く、葉いもちの発生量は中部で多く、南部ではやや多い予報。  セジロウンカは平年並、斑点米カメムシ類はやや少ない予報。  （広島県西部農業技術指導所 7月29日付）</p> <p>・注意報—いもち病の発生量が県下全域で多い予報  （広島県農林水産局 7月29日付）</p>
山口	<p>・5月移植のコシヒカリ・ひとめぼれでは、出穂期間近～出穂期になり、過去の平均と概ね同様の生育状況。5月下旬移植のきぬむすめでは、幼穂が確認できる時期となっており、出穂期予想は8月17日（早1日）の見込み。6月移植のヒノヒカリは天候回復により、生育量は確保されてきた。出穂期予想は8月下旬（平年並）の見込み。  （長門農林事務所農業部、JA長門大津、7月31日付）</p> <p>(生育) ・JAあぶらんど管内では、7月11日に早期栽培のコシヒカリで出穂を確認。本年は生育が順調に進み、昨年よりも3日早い出穂。このコシヒカリの新米は8月下旬には県内量販店の店頭に並ぶ予定。  （やまぐち農林水産ネット 7月17日付）</p>	<p>・8月の穂いもちの発生量は平年に比べて多く、紋枯病の発生量はやや少ないと予報。  セジロウンカ、コブノメイガの発生量は平年並、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類の発生量はやや少ないと予報。  （山口県病害虫防除所 8月3日公表）</p> <p>・中国では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。  中国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p> <p>・注意報—いもち病が、県内全域で7月下旬～8月下旬に、多く発生することが予想される。  （山口県 7月27日）</p>
愛媛	<p>・8月は、早期コシヒカリや早・短期あきたこまちらは登熟期となる。普通期水稲は、幼穂形成期から出穂期を迎える。  （愛媛県農林水産研究所 8月4日公表）</p> <p>(生育)</p>	<p>・四国では、いもち病の発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p> <p>・8月の東予・中予では葉いもち、穂いもちの発生量は平年並、南予では葉いもちの発生量はやや多～多く、穂いもちの発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並～やや多い予報。  斑点米カメムシ類の発生量は平年並～やや多く、ツマグロヨコバイ、イネツトムシの発生量は平年並、トビイロウンカの発生量は平年並～やや少なく、イネアオムシの発生量はやや少～平年並、コブノメイガ、セジロウンカの発生量はやや少ない予報  （愛媛県病害虫防除所 7月30日公表）</p>
高知	<p>・早期栽培の作柄は、登熟がやや不良であるが「平年並み」が見込まれる。（農林水産省 7月15日現在）</p> <p>7月9日現在</p> <p>・早期稲  出穂期は、4月6日植え南国そだちは6月18日、4月6日植えコシヒカリは6月29日、4月14日植えコシヒカリは7月5日。いずれの品種、作型とも平年より1～3日早くなっている。ただし、出穂前後の低温寡照のため、「出穂始め」～「穂揃期」までの期間が長くなっている。</p> <p>(生育) ・普通期稲  移植後、低温寡照で経過したため、平年より草丈が低く、葉数は少なく、生育進度(葉齢)が遅れている。  （高知県農業技術センター 7月16日付）</p>	<p>・8月の病害虫の予報発生量  いもち病：平年並（県下全域）  ツマグロヨコバイ：多（中央）  ヒメトビウンカ：多（中央）、やや多（西）  セジロウンカ：多（東、西）、やや多（中央）  （高知県病害虫防除所 8月4日公表）</p> <p>・四国では、いもち病の発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p> <p>・早期稲（乳熟期～黄熟期）の斑点米カメムシ類の発生状況について、県中西部で少発生、中央部は平年並、東部でやや多発生、西部では多発生であり、発生密度の高い場所も見られた。  （高知県病害虫防除所 7月30日公表）</p>
福岡	<p>・7月24日現在における水稲の生育は、草丈は平年並で、葉数は萎つくしで平年より5%多く、ヒノヒカリは7%少なく、元気つくしは前年並～やや少ない。主穂葉数は0.3～0.5葉少なく、生育は遅れている。  （福岡県農林業総合試験場 7月27日付）</p> <p>(生育)</p>	<p>・8月の葉いもちの発生量は平年より多く、斑点米カメムシ類の発生量は平年よりやや少なく、セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの発生量は平年より少ないと予報。  （福岡県病害虫防除所 7月31日付）</p> <p>・九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。  （農林水産省 7月28日公表）</p> <p>・注意報—葉いもちの発生状況について、県全体で平年・前年より多く確認された。発生程度は地域やほ場による差が大きく、一部の中山間地や平地などで増加している。  （福岡県病害虫防除所 7月24日付）</p>

		生育状況等
熊本		<ul style="list-style-type: none"> <li>九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</li> <li>8月 早稲水稲 穂いもちの発生量は平年より多く、斑点米カメムシ類の発生量は平年並、トビイロウンカの発生量は平年並の予報。 普通期水稲 葉いもちの発生量はやや多く、トビイロウンカの発生量は平年並の予報。 (熊本県病害虫防除所 7月30日公表)</li> <li>注意報-早稲水稲の穂いもちの発生について、中山間地が出穂期以降に多く発生すると予想。 (熊本県病害虫防除所 7月30日公表)</li> </ul>
宮崎	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期栽培の作柄は、4月から5月中旬にかけての日照不足、6月の低温・日照不足等の影響により穂数及び全もみ数が少ないと見込まれることから、「不良」が見込まれる。 (農林水産省 7月15日現在)</li> <li>早期水稲 登熟期～成熟期にある。今年は長期間の低温・日照不足で稲が軟らかく根の活力も低下しているため、倒伏や登熟不良などの被害が発生しやすい状況にある。</li> <li>普通期水稲 分けつ期～幼穂形成期にある。 (宮崎県農業支援課 7月14日付)</li> <li>平成27年度早期米生育状況 (6月下旬) 早期米の生育状況は、幼穂形成期～出穂期を迎えている。平年より、生育進捗が早く推移している。5月は降水量も少なく、日照時間が多かったため、生育スピードが速まったが、6月上旬に降水量が平年よりも多く、全体的に日照時間が少なく推移しているが、依然生育進捗は早く、順調に生育している。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</li> <li>「宮崎県産早期米産地情報」6月15日現在の生育ステージ (県全体) 幼穂形成期～出穂期。草丈が平年並、茎数はやや少なく、葉齢はやや少なく、生育進捗は早い。6月上旬が平年より降水量が多く、日照時間が少なく推移したが、影響はほとんどなく順調に生育している。出穂期は早いところで6月17日頃、遅いところでも6月末頃とやや早い進捗で生育している。 (中部地区) 穂ばらみ期～出穂期。生育は平年より5日早い。6月上旬の平均気温は、ほぼ平年並みで推移し、降水量は平年を大きく上回っており、日照時間はやや少なめで推移している。平年に比べ草丈がやや長く、茎数や葉齢はやや少なくなっている。出穂最盛期は、6月20日頃と見込まれる。 (南那珂地区) 穂ばらみ～出穂期。生育は平年より5日早い。降水量が平年よりも多く、日照時間が少なかったが、5月の気象条件がよかったため、生育は順調。予想出穂期は6月17日頃と見込まれる。 (児湯地区) 幼穂形成期～出穂期。生育は平年より3日程早い。日照時間が少なく、降水量が多く推移し、平均気温もやや低めだが、5月の気象条件がよかったため、生育は順調。出穂最盛期は6月21日頃と見込まれる。 (東臼杵南部地区) 幼穂形成期～減数分裂期。生育は平年より3日程早い。生育は良好であり、平年より草丈は長く、茎数も平年より多い状況。幼穂長は管内平均5.0cmとなっており、6月下旬頃が出穂であると思われる。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</li> <li>九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</li> <li>8月の普通期水稲の病害虫の発生は、葉いもちはやや多く、紋枯病、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ、トビイロウンカ、コブメイガは平年並、ヒメトビウンカはやや少の予報 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月27日公表)</li> </ul>
鹿児島		<ul style="list-style-type: none"> <li>九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</li> <li>8月のいもち病、紋枯病の発生量は平年並、トビイロウンカの発生量はやや多く、コブメイガの発生量はやや少ない予報 (鹿児島県病害虫防除所 7月29日公表)</li> </ul>

注1：地方自治体及び先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 26年度	作況指数 26年度
		参考					
		平成27年度	前年度との比較	増減率	自主的取組参考値（深堀）		
全国	<p>（8月8日～9月7日の見通し）</p> <p>・北・東・西日本の気温は、1週目は平年並の見込みだが、向こう1か月の気温は、北日本で高く、東・西日本では平年並か高い見込み。東日本では、高気圧に覆われる日が多く、向こう1か月の日照時間は平年並か多く、東日本日本海側の向こう1か月の降水量は、平年並か少ない見込み。沖縄・奄美では、高気圧に覆われる日が多く、向こう1か月の日照時間は多く、降水量は平年並か少ない見込み。（気象庁 8月6日発表）</p> <p>・北日本と東日本の長期間の高温に関する全般気象情報第1号 北・東日本では、7月11日頃から気温の高い状態が続いており、この状態は、今後1週間程度は続く見込み。（気象庁 8月3日発表）</p> <p>（8～10月の3か月間の見通し）</p> <p>・8月 気温は全国的にほぼ平年並、降水量は北日本と東日本日本海側で、平年並か多い見込み。 9月 気温は全国的にほぼ平年並、降水量は北日本では、平年並か少ない見込み。 10月 気温は北・東日本で平年並か高く、降水量は東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年並か少ない見込み。（気象庁 7月24日発表）</p> <p>※北・東日本では、7月24日発表の3か月予報の8月の見通しに比べ、日本付近で太平洋高気圧の勢力が強く、気温が高い可能性が大きい予報に変わった。東日本日本海側では、降水量が少ない可能性が大きい予報に変わった。（気象庁 7月30日発表）</p> <p>・エルニーニョ現象が続いている。今後、冬にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い。（気象庁 7月10日公表）</p>	7,510,000	▲ 140,000	▲ 1.8	7,390,000	7,882,000	101
北海道	<p>・北海道地方の8月8日～9月7日の1か月間は、1週目の気温は平年並となる見込みだが、2週目以降の気温は平年より高い見込み。期間のはじめは気圧の谷や違った気流の影響を受けやすいため、降水量は平年並か多い見込み。日照時間はほぼ平年並の見込み。（札幌管区気象台 8月6日発表）</p>	547,330	▲ 6,810	▲ 1.2	538,580	597,200	107
青森	<p>・東北地方の8月8日～9月7日の1か月間は、東北部を中心に、期間の前半は降水量の少ない状態が続く見込み。平年に比べて晴れの日が多く、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込み。（仙台管区気象台 8月6日発表）</p>	242,460	▲ 4,540	▲ 1.8	238,580	257,400	104
岩手	同上（仙台管区気象台 8月6日発表）	271,210	▲ 4,330	▲ 1.6	266,880	287,700	105
宮城	同上（仙台管区気象台 8月6日発表）	348,620	▲ 14,010	▲ 3.9	343,050	379,600	105
秋田	同上（仙台管区気象台 8月6日発表）	417,540	▲ 15,500	▲ 3.6	410,860	453,000	104
山形	同上（仙台管区気象台 8月6日発表）	344,500	▲ 14,070	▲ 3.9	338,990	380,700	105
福島	同上（仙台管区気象台 8月6日発表）	339,550	▲ 8,870	▲ 2.5	334,130	350,600	104
茨城	<p>・関東甲信地方の8月8日～9月7日の1か月間は、1週目の気温は平年並となる見込みだが、1か月の平均気温は平年並か高い見込み。高気圧に覆われる日が多く、日照時間は平年並か多く、降水量はほぼ平年並の見込み。（気象庁 8月6日発表）</p>	337,370	▲ 4,180	▲ 1.2	331,980	396,200	105
栃木	同上（気象庁 8月6日発表）	298,690	▲ 10,640	▲ 3.4	293,920	313,700	100
埼玉	同上（気象庁 8月6日発表）	151,270	▲ 1,410	▲ 0.9	148,850	169,800	102
千葉	同上（気象庁 8月6日発表）	246,490	▲ 2,790	▲ 1.1	242,550	325,300	104
新潟	<p>・北陸地方の8月8日～9月7日の1か月間は、期間の後半は、高気圧に覆われて晴れる日が多く、暖かい空気に覆われやすいため、気温が高い見込み。向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込み。（新潟地方気象台 8月6日発表）</p>	521,290	▲ 14,350	▲ 2.7	512,960	576,000	101
富山	同上（新潟地方気象台 8月6日発表）	185,650	▲ 6,690	▲ 3.5	182,680	193,100	101
石川	同上（新潟地方気象台 8月6日発表）	123,630	▲ 2,770	▲ 2.2	121,650	123,400	98
福井	同上（新潟地方気象台 8月6日発表）	125,460	▲ 2,670	▲ 2.1	123,460	126,000	98
長野	<p>・関東甲信地方の8月8日～9月7日の1か月間は、1週目の気温は平年並となる見込みだが、1か月の平均気温は平年並か高い見込み。高気圧に覆われる日が多く、日照時間は平年並か多く、降水量はほぼ平年並の見込み。（気象庁 8月6日発表）</p>	194,000	▲ 2,640	▲ 1.3	190,900	195,800	96

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	%	t	t	t	
滋 賀	・近畿地方の8月8日～9月7日の1か月間は、期間の後半を中心に気温が平年より高いため、残暑が厳しい見込み。向こう1か月間の平均気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 （大阪管区気象台 8月6日発表）	160,450	▲ 2,930	▲ 1.8	157,880	157,100	97
兵 庫	同上（大阪管区気象台 8月6日発表）	180,440	▲ 1,490	▲ 0.8	177,560	177,800	97
岡 山	・中国地方の8月8日～9月7日の1か月間は、気温は1項目と2項目は平年並で、3～4項目は暖かい空気に覆われて高く、向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。 （広島地方気象台 8月6日発表）	158,550	▲ 1,640	▲ 1.0	156,020	153,300	94
広 島	同上（広島地方気象台 8月6日発表）	129,970	▲ 160	▲ 0.1	127,890	123,300	95
山 口	・九州北部地方（山口県含む）の8月8日～9月7日の1か月間は、低気圧や暖かく湿った気流の影響を受ける日があり、向こう1か月の降水量は平年並か多い見込み。後半は高気圧におおわれやすく、気温が平年より高く、向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。日照時間はほぼ平年並の見込み。 （福岡管区気象台 8月6日発表）	108,760	▲ 2,060	▲ 1.9	107,020	103,800	96
愛 媛	・四国地方の8月8日～9月7日の1か月間は、太平洋高気圧に覆われやすく、平均気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並、日照時間もほぼ平年並の見込み。 （高松地方気象台 8月6日発表）	73,920	▲ 570	▲ 0.8	72,740	73,000	98
高 知	同上（高松地方気象台 8月6日発表）	50,070	20	0.0	49,270	55,600	95
福 岡	・九州北部地方（山口県含む）の8月8日～9月7日の1か月間は、低気圧や暖かく湿った気流の影響を受ける日があり、向こう1か月の降水量は平年並か多い見込み。後半は高気圧におおわれやすく、気温が平年より高く、向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。日照時間はほぼ平年並の見込み。 （福岡管区気象台 8月6日発表）	182,470	▲ 1,910	▲ 1.0	179,550	176,400	96
熊 本	同上（福岡管区気象台 8月6日発表）	189,310	▲ 610	▲ 0.3	186,290	180,500	97
宮 崎	・九州南部地方の8月8日～9月7日の1か月間は、平年と同様に晴れの日が多いが、湿った気流の影響を受けて、降水量は平年並か多い見込み。平均気温は平年並か高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。 （鹿児島地方気象台 8月6日発表）	93,600	▲ 870	▲ 0.9	92,100	84,600	98
鹿 児 島	同上（鹿児島地方気象台 8月6日発表）	111,070	▲ 470	▲ 0.4	109,290	102,300	95

参考資料:

平成27年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省)

平成27年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)

平成26年産水陸稲の収穫量(農林水産省)

平成27年度病害虫発生予報第5号(農林水産省)

農作物の生育状況 8月1日現在(北海道 8月4日)、農作物生育状況 8月1日現在(北海道空知総合振興局 8月4日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道石狩振興局 8月4日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道後志総合振興局 8月4日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道胆振総合振興局 8月4日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道日高振興局 8月4日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道渡島総合振興局 8月4日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道釧路振興局 8月4日)、農作物の生育状況 8月1日現在(北海道上川総合振興局 8月4日)、農作物生育状況調査の概要 8月1日現在(北海道留萌振興局 8月4日)、農作物の生育と農作業の進ちょく状況 8月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月4日)、

平成27年度病害虫発生予察情報第10号注意報第2号(北海道病害虫防除所 8月5日)、病害虫発生予察情報第9号8月予報(北海道病害虫防除所 7月28日)、作況調査報告(生育ステージ)(青森県産業技術センター農林総合研究所 8月5日)、8月5日現在水稲出穂状況(青森県 8月6日)

平成27年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(青森県病害虫防除所 7月29日)

農作物技術情報第5号水稲(岩手県他 7月30日)、号外高温対策(水稲)(岩手県他 8月3日)、

平成27年度水稲生育定期調査結果 №6(7月24日現在)(岩手県農業研究センター 7月27日)、

平成27年度病害虫発生予察情報 発生予報第5号・注意報第3号・注意報第4号(岩手県病害虫防除所 7月30日)、

平成27年産水稲の出穂状況について(8月3日現在)(宮城県農林水産部 8月4日)、平成27年産産稲作技術情報第9号(宮城県大崎農業改良普及センター 8月3日)、

仙台直播情報平成27年度版第3号(仙台農業改良普及センター 7月28日)、稲作情報第5号(仙台農業改良普及センター 7月28日)、

平成27年産仙南稲作情報(第6号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月29日)、平成27年産美里地区の稲作情報第7号(宮城県美里農業改良普及センター 7月22日)、

栗原の稲作通信平成27年度第6号(栗原農業改良普及センター 7月24日)、登米地域の稲作通信第7号(登米農業改良普及センター 7月22日)、

稲作情報Vol.6(石巻農業改良普及センター 7月23日)、稲作情報Vol.8(本吉農業改良普及センター 7月22日)、

平成27年度稲作情報第2号(亶理農業改良普及センター 6月17日)、

平成27年度発生予察情報発生予報第7号(概要版)(宮城県病害虫防除所 7月22日)、平成27年度発生予察情報注意報第3号(宮城県病害虫防除所 7月29日)、

生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちちゃんネ」<http://www.e-komachi.jp/> 7月31日)。

平成27年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第4号(8月予報)(秋田県病害虫防除所 7月30日)、

高温緊急対策(水稲)号(山形県産米ブランド推進課 8月4日)、稲作だより緊急対策号(最上総合支庁 8月4日)、つや姫情報第4号(最上総合支庁 8月4日)、

つや姫通信第6号(村山総合支庁農業技術普及課 8月4日)、おしい米づくり情報第9号(村山総合支庁農業技術普及課 8月3日)、

稲作だより【緊急・高温対策】(村山総合支庁産業経済部 北村山農業技術普及課 7月23日)、

酒田飽海日本一米づくり情報第9報(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 8月4日)、

おしい米づくり情報第10号・つや姫だより第7号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月22日)、

平成27年度農作物有害動物発生予察情報発生予報第5号(8月)(山形県病害虫防除所 7月29日)、

平成27年度農作物有害動物発生予察情報注意報第2号(山形県病害虫防除所 7月23日)、

主要な農作物の生育情報平成27年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 6月26日)、

稲作情平成27年度第4号(福島県喜多方農業普及所ほか 7月7日)、平成26年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(7月)(福島県病害虫防除所 7月24日)、

農研速報(水稲の生育状況、7月30日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月3日)、

農研速報(水稲の生育状況、7月23日現在、龍ヶ崎市)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月23日)、

病害虫発生予報8月号(茨城県病害虫防除所 7月31日)、

平成27年度水稲生育診断予測事業速報No.5(栃木県 7月24日)、平成27年度病害虫発生予報第4号(栃木県農業環境指導センター 7月17日)、

平成27年度水稲の生育概況vol.2(埼玉県 7月7日)、平成27年度病害虫発生予報第4号(8月予報)(埼玉県病害虫防除所 7月30日)、

水稲の生育状況と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月30日)、平成27年度病害虫発生予報第4号(千葉県病害虫防除所 7月8日)、

水稲の生育状況と今後の管理対策第8号(新潟県農林水産部 7月31日)、水稲の生育状況(新潟米情報センター 7月23日)、

岩船米生育速報(7月30日現在)(村上農業普及指導センター)、新発田地域水稲育成速報No.8(新発田農業普及指導センター 7月30日)、

新潟稲作速報No.8(新潟農業普及指導センター 7月30日)、水稲生育速報No.7(新潟農業普及指導センター 7月31日)、

FAX稲作速報(三条農業普及指導センター 7月30日)、水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月30日)、

稲作情報No.9(南魚沼農業普及指導センター 7月30日)、7/30稲作生育速報(十日町地域)(十日町地域振興局農業振興部 7月30日)

稲作管理情報8(柏崎農業普及指導センター 7月31日)、水稲生育速報(7月30日)(上越農業普及指導センター)、

平成27年度糸魚川赤れる米づくり水稲生育情報No.7(糸魚川農業普及指導センター 7月31日)、

平成27年度 稲作生育速報No.7(佐渡農業普及指導センター 7月30日)、

稲作情報 (JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月16日付)、水稲生育速報(巻農業普及指導センター 7月27日)、

平成27年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第6号(8月の発生予報)(新潟県病害虫防除所 7月31日)、

TACS情報第9号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月21日)、直播情報第6号(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月17日)、

病害虫発生予報第5号(富山県農林水産総合技術センター 8月3日)、

平成27年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-9号)(石川県農林総合研究センター 7月29日)、

平成27年度病害虫発生予報第5号(石川県農林総合研究センター 8月4日)、

稲作情報No.11(福井県水田農業・バレルアップ委員会技術普及部会 7月17日)、平成27年農作物病害虫発生予察予報第6号(福井県農業試験場 7月31日)、

平成27年度作物技術普及情報第12号(長野県松本農業改良普及センター)、病害虫発生予報第4号(長野県病害虫防除所 7月15日)、

平成27年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月30日)、平成27年病害虫発生予報第8号(滋賀県病害虫防除所 8月4日)、

台風第11号による被害等(兵庫県 7月21日)、

平成27年度兵庫県農業気象技術情報第3号(8月情報)について(兵庫県農政環境部 8月3日)、平成27年度病害虫発生予察予報第3号(兵庫県病害虫防除所 7月22日)、

平成27年度病害虫発生予報第5号(岡山県病害虫防除所 8月3日)、

平成27年度広島県病害虫発生予察情報予報第5号(広島県西部農業技術指導所 7月29日)、平成27年度病害虫発生予察情報注意報第1号(広島県農林水産局 7月29日)、

稲作フポイントアドバイス(No7)(長門県林事務所 7月31日)、山口農林水産ネット新着-ユース(やまぐち農林水産ネット 7月17日)、

農作物病害虫発生予報8月(山口県病害虫防除所 8月3日)、平成27年度農作物病害虫発生予察注意報第2号(山口県 7月27日)、

気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県農林水産研究所 8月4日)、病害虫発生予報(8月)(愛媛県病害虫防除所 7月30日)、

平成27年度における水稲の生育状況(7月9日時点)(高知県)、平成27年度農作物病害虫発生予察技術資料第3号(高知県病害虫防除所 7月30日)

平成27年度病害虫発生予察予報第5号(8月)(高知県病害虫防除所 8月4日)、

福岡県米麦大豆生育情報(普通期水稲の生育概況と対策)(福岡県農林業総合試験場 7月27日)、平成27年度病害虫発生予報第5号(8月)(福岡県病害虫防除所 7月31日)、

注意報第1号水稲のいもち病の発生について(福岡県病害虫防除所 7月24日)、(平成27年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(熊本県病害虫防除所 7月30日)、

台風11号事前事後対策について(宮崎県営農業支援課 7月14日)、平成27年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月27日)、

平成27年産早期米生育状況・平成27年産宮崎県産早期米産地情報(平成27年6月15日現在)(宮崎経済連ホームページ<http://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html> 7月6日)

平成27年度病害虫発生予察注意報第3号(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 8月3日)、

平成27年度病害虫発生予報第5号(8月)(鹿児島県病害虫防除所 7月29日)

北日本と東日本の長期間の高温に関する全般気象情報 第1号(気象庁)、全般予報向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、北海道方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、北陸地方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方向こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、四国地方向こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)